

第25回 品質保証分科会 議事録

1. 日 時 平成 21 年 3 月 4 日 (水) 13:30 ~ 15:30

2. 場 所 日本電気協会 4 階 会議室 C , D

3. 出席者 (敬称略 , 五十音順)

出席委員 : 飯塚分科会長 (東京大学) , 渡邊 (邦) 幹事 (東京電力) , 荒木 (原子燃料工業) , 戎崎 (関西電力) , 奥本 (日本原燃) , 川端 (三菱電機) , 佐藤 (東京海洋大学) , 佐藤 (東北電力) , 島田 (日本原子力発電) , 島津 (北海道電力) , 鈴木 (三菱原子燃料) , 関谷 (発電設備技術検査協会) , 平 (日本製鋼所) , 高橋 (富士電機システムズ) , 谷 (日本原子力技術協会) , 福本 (GNFI) , 本田 (中国電力) , 三枝 (IHI) , 宮越 (三菱重工業) , 棟近 (早稲田大学) , 山本 (東芝) , 吉永 (電源開発) , 渡辺 (雅) (原子力安全基盤機構) (計 23 名)

代理委員 : 大西 (四国電力 川西代理) , 長尾 (中部電力 倉田代理) , 奈良 (東京電力 福良代理) , 力久 (九州電力 岡野代理) (計 4 名)

欠席委員 : 浅野 (日本原子力研究開発機構) , 植松 (三井造船) , 上戸 (原子力安全・保安院) , 小嶋 (日立 GE ニュークリア・エナジー) , 中田 (北陸電力) , 結城 (原子力安全・保安院) (計 6 名)

事務局 : 牧野 , 高須 , 糸田川 , 国則 , 井上 (日本電気協会) (計 5 名)

4. 配付資料

資料 No. 25-1	第 24 回品質保証分科会 議事録 (案)
資料 No. 25-2	品質保証分科会委員名簿
資料 No. 25-3	JEAC4111-2009 改定案 (書面投票版からの変更履歴付)
資料 No. 25-4	JEAG4121-2009 改定案 (書面投票版からの変更履歴付)
資料 No. 25-5	JEAC4111 / JEAG4121 公衆審査版の修正要事項一覧
資料 No. 25-6	中條先生 , 及び安全管理技術評価 WG コメント対応
資料 No. 25-7	原子力規格委員会 品質保証分科会 活動計画 (平成 21 年度)
資料 No. 25-8	「各分野の規格策定活動」の見直し (案)
参考資料-1	JEAC4111-2009 改定案公衆審査版 (書面投票版からの変更箇所)
参考資料-2	JEAG4121-2009 改定案公衆審査版 (書面投票版からの変更箇所)

5. 議事

(1) 議事次第と配付資料の確認

事務局より , 当日の議事次第と配付資料の確認が行われた。

(2) 代理委員の承認 , 会議定足数の確認

飯塚分科会長より , 代理委員 4 名が承認され , 分科会委員総数 33 名中代理委員を含め , この時

点での出席委員が 27 名で、委員総数の 3 分の 2 以上という定足数を満たし、会議が成立することが確認された。

(3) 第 24 回品質保証分科会議事録について

事務局より、資料 No.25-1 に基づき、第 24 回品質保証分科会議事録（案）が紹介され、本内容で正式議事録とすることが全員の賛成で承認された。

(4) JEAC4111, JEAG4121 改定案について

渡邊（邦）幹事より、資料 No.25-3～資料 No.25-6 及び参考資料-1, 2 に基づいて、JEAC4111 及び JEAG4121 改定案の追加修正内容の説明があり、本日の審議内容を踏まえて一部を修正し No.25-6 以外を原子力規格委員会に上程すること、修正内容及びその後のパブコメ対応等についてのエディトリアルな修正については分科会長、幹事に一任することについて、全員の賛成により可決された。

主な質疑・コメントは以下の通り。

- ・安全管理技術評価 WG での議論を踏まえて修正を検討中の 7.1 と 7.3 の関係については、2003 年版策定時にも検討しており、基本的には 7.1 で取り組んでも 7.3 で取り組んでも同じだが、新規性が高くて実証や妥当性の確認を行う項目については 7.3 を使った方が良いということを確認していたが、明確には記載されていなかったため、JEAG4121 で明確に解説することにしたものである。
- ・7.1 を適用することは軽いものではないということ、プロセスの計画についても 7.1 をきちんと実施すれば結果的に 7.3 を適用したのと同じになること、7.3 を適用してもよいという注記は 7.1 の重要性を強調するためであること、というような解説の内容がよいと思われる。
- ・現在の 2 番目の文章は分かりづらいので、『この注記の意図は、JEAC4111 においては「7.1 業務の計画」に基づいて構築された業務プロセスの運用及び結果が、原子力安全(製品)そのものとなることを踏まえ、構築するプロセスの妥当性をより確実に確保する必要がある場合には「7.3 設計・開発」を適用した適切な管理を推奨することにある。』（下線部修正）というような内容にするのがよい。
- ・当該の修正提案の理由については、「安全管理技術評価 WG での議論を踏まえた記載の適正化」と記載するのがよい。

(5) 平成 20 年度活動実績・平成 21 年度活動計画について

渡邊（邦）幹事より、資料 No.25-7 及び資料 No.25-8 に基づいて、平成 20 年度の活動実績・平成 21 年度活動計画についての説明があり、審議の結果、一部以下のとおり修正し原子力規格委員会へ上程することについて、全員の賛成により可決された。

- ・（平成 21 年度活動計画）(1)については、『JEAG4121 附属書「品質マネジメントシステムに関する標準品質保証仕様書」英訳版発行の検討』とする。
- ・（分科会、原子力規格委員会上程時期）については、「未定」とする。

主な質疑応答・コメントは以下の通り。

- ・ JEAG4121 の英訳版発行については、海外業者との契約に利用することを考えているということか。
 - 契約形態は、事業者からの直接契約も、プラントメーカー経由の契約もあろうが、海外業者との契約に利用することを考えている。
- ・ 通常の海外業者との契約を考えると、標準の仕様書を添付するような方法ではなく、必要な要求事項は契約書に明記すべきと思われること、価格的には、供給者の標準の仕様に加えて必要な内容を契約で追加要求する方法が効果的であること、NRC も ISO を気にしており、グローバルな品質保証要求事項の検討が行われる可能性があること、以上のようなことから、海外向けの標準品質保証仕様書として具体的にニーズがあるのか疑問が残る。
 - 必要に応じて要求事項を追加するための、ベースとなる英文の共通品質保証仕様書という位置づけで考えている。
- ・ 日本語版の単純翻訳であれば、編集上の修正の審議と同様だが、内容に追加などがあれば通常の規格の審議と同じ手順となることも考慮する必要がある。
- ・ いずれにしても、本日の議論を踏まえ、ニーズを再確認し、当分科会として今年度、英訳に取り組むかどうか、次回の分科会で決定することとする。

(6) その他

次回、第 26 回品質保証分科会は、平成 21 年 6 月 15 日（月）13:30～に開催する予定とした。

以 上